

日仏両国の出会い

1858年、フランスと江戸幕府間での日仏修好通商条約調印をもって、両国間の外交関係が構築された。翌年には在日本フランス総領事としてベルクールが来日(1861年に初代公使に昇任)。

1864年にベルクルールの後任として来日したロッシュは軍事・技術面での支援を行うなど江戸幕府との関係を深めた。両国の友好関係は現在まで続いている。

長崎では外国人居留地が造成され、フランス人の居留がはじまり、後には領事館も設置された。

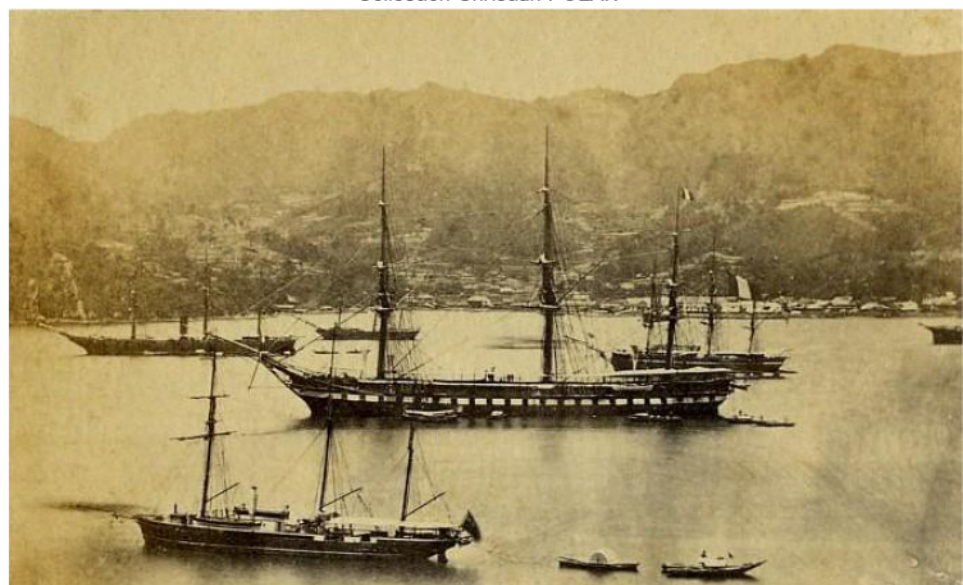
長崎にはプチジャン神父、ド・ロ神父、レオン・デュリ、ヴィクトール・ピニヤテル、ピエール・ロチなど多様な知識・技術を持った魅力あふれる人物が訪れ、それぞれの分野で長崎における日仏交流の1ページを彩った。



1846年に長崎を通過したフランスのインドシナ艦隊(左)
フランス海軍総督ソモダリア・ムストルを描いた浮世絵(右)
Collection Christian POLAK



ピエール・グスターヴ・ロゼ提督とラ・ゲリエールの乗組員たち
Collection Christian POLAK



レオン・ロッシュ来崎時の乗船、ラ・ゲリエール
Collection Christian POLAK